

“大阪音大100年の「層」が
感じられる演奏会に”

●スペシャルインタビュー

西本 智実

〔指揮者〕

10月15日に開催される100周年記念特別演奏会で
指揮者を務める西本智実さん。
現在、世界で活躍する西本さんに
大学時代の思い出や記念演奏会にかける
意気込みを語っていただきました。

西本智実さんが指揮をする

創立100周年記念特別演奏会
10月15日(木) 17:30開演(16:45開場)
フェスティバルホール

L.v. ベートーヴェン／
交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱付き」
≫ 詳細は22ページ

大阪音大出身の母をはじめ、親戚にも音楽大学で学んだ人が多くいる環境で育ちました。4歳の頃、初めて観たポリシヨイバレエの来日公演に衝撃を受け、それからバレエやコンサートにはよく連れて行ってもらっていました。家でもさまざまなジャンルのレコードをよく聴いていましたが、同じ曲でもコンサートとレコードでは全然違うのが不思議で、母に聞くと「指揮者が違うから」と教えられたことが指揮者に興味を持ったきっかけです。

子どもながらに音楽家という職業の厳しさは知っていましたから、職業として本気で音楽家を志していたわけではありませんでしたが、音楽の魅力をもっと知りたい、本質的なところを学びたいと思ったことから大阪音大に進学しました。

大学入学後すぐ、関西歌劇団の新作オペラ公演をお手伝いする機会に恵まれました。当初は新作のパート譜作成から始まり、字幕や照明のキュー出し、副指揮へと携わる機会を得ていきました。何でも吸収できる若い時にオペラを指揮し、舞台の裏側でどれだけの人が連動して動いているのかを制作現場で体験出来たことが、その後オペラ劇場で指揮者として働けたことにつながったと思います。

作曲を専攻しながら学外で指揮の道に進み始めていましたので、出来のいい生徒ではなかったと思いますが(笑)、大学では武藤好男先生(現・学長)に指導していただきました。武藤先生は棋士のような鋭さを秘めた先生。口調は優しいのですが、スパッスパッと斬られるような感覚というか、向かい合っているレッスンは常に緊張感のあるものでした。でも、季節のいいときなどは「え？(学校に)来たの」って(笑)。そういうユーモアも持っている先生で、私が指揮者の道を歩き始めているのを、いつも大きく見守ってくださっていました。

今でも「作曲を学んでおいてよかった」と思うのは、分厚いオーケストラスコアや何時間ものオペラのスコアと向き合う時に、作曲学的分析で楽譜を読み解けるところ。特に外国ではそういったところが指揮者に求められます。

100周年というのは、これまで大学が培ってきたものが次に新しい広がりを生み出すような、ひ

西本智実さんから学生みなさんへ

小学生の卒業アルバムに「作曲家と指揮者になって、人の心をなぐさめるような音楽を創りたい。」と書いた私ですが、今でも夢を実現したとは思っていません。

私にとって夢とは、とても抽象的で感覚的なものですから、ゴールも答えもなく、もし「夢が叶った」と感じるときは音楽家を辞めるときだと思っています。

音楽大学で学ぶ人たち、あるいはこれから学ぼうという人たちは、幼いころから努力を積み重ねる中で、音楽で“何か”を表現したくてその道に入ろうとしていることなのでしょう。音楽大学に入学したら終わりということはありませんし、卒業したら終わりでもありません。

実学の経験をどんどん積んでください。たとえば端から遠回りに見えることがあっても、それこそがあなたの表現を培う“強み”となるでしょう。

とつの起点の年。90周年の特別演奏会でも指揮者を務めさせていただきましたが、私にとってもこの10年の重みはまた違う。その記念式典で指揮者を務めさせていただくことは何より光栄なこと。オーケストラは学生を中心に、教員や卒業生のみならずも参加します。私自身は同じ出身学校の人たちが一堂に会して演奏することが楽しみ。大阪音大の100年の力を総結集するような、100年の「層」が感じられるような第九にしたいと思っています。

TOMOMI NISHIMOTO

大阪音楽大学作曲学科作曲専攻卒業後、ロシア国立サンクトペテルブルク音楽院オペラ・シンフォニー指揮科に留学。文化庁芸術インターンシップ奨学金生、ヴァチカンの音楽財団より「名誉賞」、「出光音楽賞」など受賞多数。現在、イルミナート芸術監督兼首席指揮者、ロイヤルチェンバー音楽監督兼首席指揮者、日本フィルミュージックパートナー、平戸名誉大使第一号、大阪国際文化大使第一号。2014年、本学客員教授に就任。約30ヵ国から指揮者として招聘。ハーバード大学大学院に奨学金研修派遣され修了。

魅力を探るための5つのキーワード

大音は常に時代のパイオニアでした。…………… PAGE.06

大音とおき話 …………… PAGE.10

今思う、大音の魅力 …………… PAGE.12

数字で見る大音の今。…………… PAGE.17

座談会「大阪音大 次の100年へ」…………… PAGE.18

生徒たちへの深い愛情で オリジナルピアノを試作

大阪音楽学校創立者の永井幸次は第二次世界大戦後のその日の生活にも困窮するなか、生徒たちに一円でも安く、そして当時の住宅事情からできるだけ小さいグランドピアノをどうしても与えてやりたいと、自らピアノ製造することを発案。費用の大半を永井が出資し、ピアノの試作にあたった。

少しでも廉価に製作するため、鍵盤に青竹の皮、響板に電柱の廃材である桧、ピアノ線の代わりに鉄線を焼いた鋼鉄など徹底的に廃物を利用。試行錯誤の結果、永井の最初の思惑とは少し違ったが、何とか1台のピアノを完成させた。

だが実際の商品化となると、材料・部品、職人などの面でかえってコスト高になってしまい、採算が合わず無駄であるという結論に達したという。現在そのピアノの行方は不明で、残っているのは写真のみである。

写真 永井幸次が試作した幻のピアノ。
K.NAGAI & SONの文字が読める。

創立100周年特別編集

これまでの大音、これからの大音。

大音の魅力を探る。

創立100周年を迎えた大阪音大。先達の足跡を振り返りながら、次代に引き継ぐべきその「魅力」を探ってみました。

{ 1918 }

大阪市中央公会堂で こけら落としの音楽会

中之島に完成したばかりの大阪市中央公会堂で、本学の創立3周年を祝う音楽会が開催された。これが、中央公会堂のこけら落としの音楽会となった。公会堂のホールを初めて満たした音楽は大阪音楽学校によるものであった。



{ 1958 }

関西唯一の四年制 音楽単科大学が誕生

この年の1月10日に待望の四年制大学設立の認可が下り、関西で唯一の男女共学の四年制音楽単科大学が誕生した。4月1日に大阪音楽大学開学。これに合わせて大阪音楽高等学校を大阪音楽大学付属音楽高等学校へと名称変更した。



出典>
教育タイムス第483号
(1958年1月29日)

{ 1957 }

日本初の ビニール製野外演奏堂完成

当時の水川清一理事長の考案で、日本初のビニール製の野外演奏堂が完成した(現在のB号館・C号館辺り)。これを記念して学生たちがヘンデルのハレルヤコーラスを演奏したが、その模様は「The Japan Times」に取り上げられた。



出典>THE JAPAN TIMES (1957年12月17日)

出典>上/毎日グラフ(1957年7月28日号)。下/関西歌劇団第23回定期公演「アイダ」プログラム(1957年10月27日、28日)

{ 1957 }

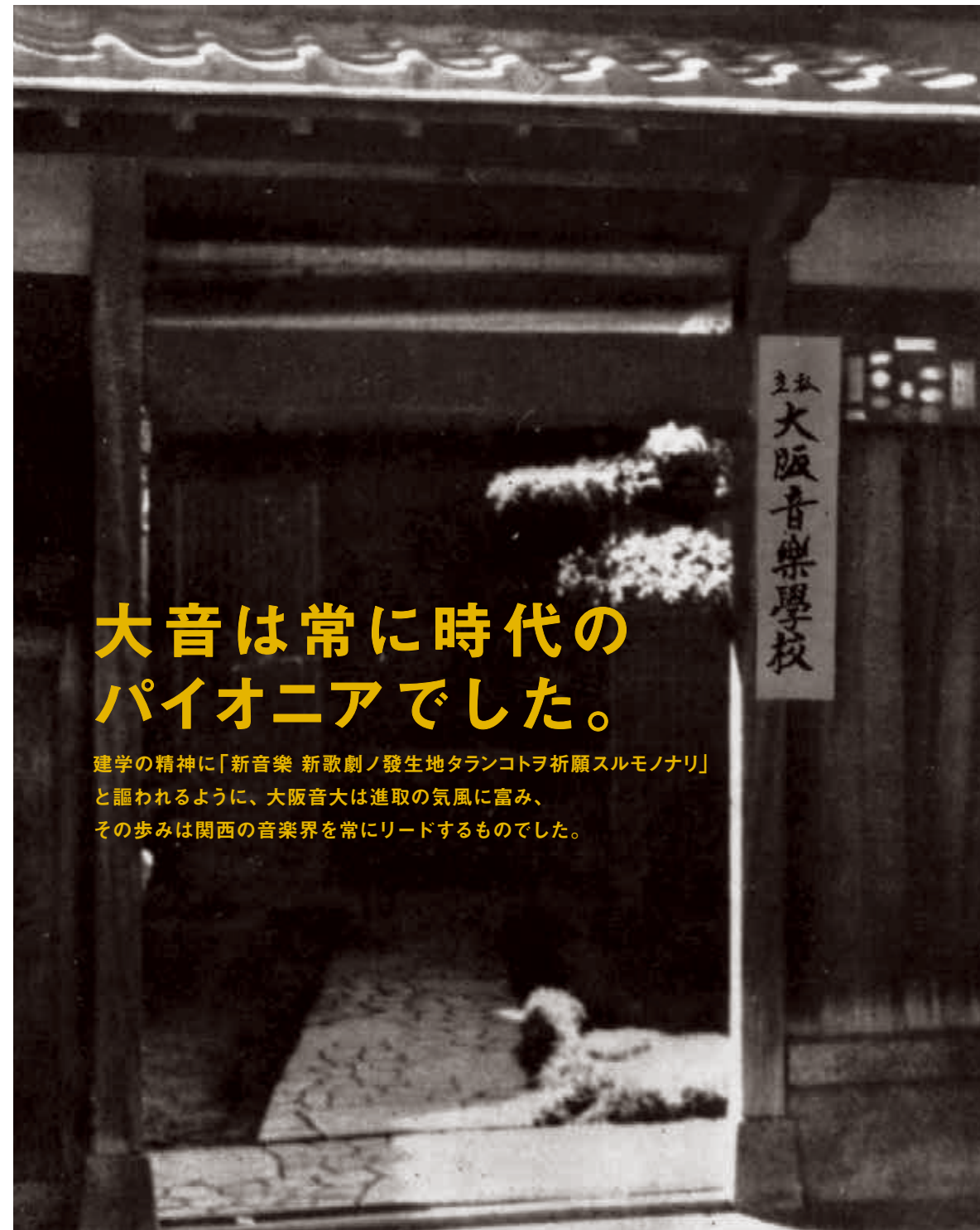
日本初、野球場での オペラ公演に参加

野球場でオペラという、日本初の試みに本学の学生たちが参加した。甲子園球場と大阪球場を舞台にヴェルディ「アイダ」を上演。有名な凱旋シーンでは阪神パークやみさき公園、阪神競馬場の協力を得て、本物の象やラクダ、馬車などを登場させ話題になった。



大音は常に時代の パイオニアでした。

建学の精神に「新音楽 新歌劇ノ發生地タランコトラ祈願スルモノナリ」と謳われるように、大阪音大は進取の気風に富み、その歩みは関西の音楽界を常にリードするものでした。



{ 1915 }

関西初の私立音楽学校が誕生

上方の地歌や人形浄瑠璃などの伝統を有する文化都市でもあった大阪に西洋音楽の専門学校をつくりたい、という永井幸次の熱意によって、大阪の中心部・塩町(今の南船場)に男子も学べる関西初の音楽学校「大阪音楽学校」の看板が掲げられた。



{ 1989 }

日本初のオペラハウス

「ザ・カレッジ・オペラハウス」完成

日本で初めて専属の管弦楽団、合唱団を持ったオペラハウス。“総合芸術”オペラの本格公演ができるホールであり、新しい芸術を作り上げる音楽運動の拠点として建設された。3月15日竣工、4月20日～23日のヴェルディ「ファルスタッフ」上演を皮切りに、6日間のこけら落とし公演を開催した。

{ 1992 }

日本初の

ジャズ、ポピュラー専門

教育カリキュラムがスタート

25年の歴史を持つ短大独自の専攻「音楽専攻」の教育システムを大改革。“音楽の体験(実践的科目)”に重点が置かれ、多様な経験を通して音楽をじかに学び取れるカリキュラムとなった。クラシック音楽の教育を主としてきた音楽大学でポピュラーやジャズを組み込んだのは画期的なことだった。



大阪音大100年の歩みはHPでも配信しています。ぜひ、ご覧ください。
<http://www.daion.ac.jp/anniversary/kinen/>



{ 1967 }

関西初の音楽幼稚園誕生

幼児期からの音感教育の重要性を説いていた故永井幸次の遺志を継ぎ、関西初の音楽幼稚園を設立。5歳児、4歳児計144人を募集し、園長の水川清一(大学学長と兼務)以下22人のスタッフで開園を迎えた。以来、大学と連携しつつ、特色ある保育を行うこととなった。



{ 1968 }

西日本の音楽系大学で初、

大学院開設

四年制大学昇格時「あとは大学院を…」と闘志を燃やし続けた永井幸次の逝去から3年。悲願の大学院開設が実現した。わが国では東京藝術大学、武蔵野音楽大学に次ぎ、国立音楽大学とともに音楽系で大学院を設置する学校となった。



{ 1966 }

戦後初、本学管弦楽団が

台湾へ演奏旅行に

戦後、日本のオーケストラが台湾を訪れるのは初めてのことで、本学管弦楽団にとっても初めての海外進出だった。総勢34人の旅行団を結成し、6泊7日の日程で訪台。最終日には中国文化学院で単独の演奏会を開いた。



{ 1967 }

西日本初の邦楽部門開設

邦楽部門の開設は創立時からの目標の一つでもあったが、西洋音楽の教育、普及に追われ、機を逸してきた。この年、関西が誇る邦楽家、菊原初子が教授就任を受諾し、須山知行らを教授陣に迎え、短大に邦楽部門が誕生。創立52年にして初めて和洋音楽の学府となった。

博物館に眠る遺髪

バッハ、ベートーヴェンとともにドイツ音楽の「三大B」と称されるJ.ブラームス(1833-1897年)の遺髪が音楽博物館で展示されています。オーストリアの収集家から西岡信雄名誉教授が譲り受けたもので平成22年に寄贈されました。遺髪は約20本。栄誉や復活の象徴とされる月桂樹の葉とともに縦15センチ、横11センチの額に収められています。鑑定書付き。



男はつらいよ 庄内移転篇

昭和29年、味原の旧校舎から庄内の新校舎への引っ越しには男子学生達が活躍しました。何台かのトラックに机や椅子など荷物を積んで2、3人ずつ同乗。すべて運び終えるまで何往復もしたとか。楽譜「凱旋」の収益で購入し、味原30年の歴史を象徴する記念品の革張り椅子も大切に運ばれました。



何かの呪文? 「ダナヤバサラタ」

音楽教育に人一倍熱心だった永井幸次は、「イロハニ…」や「ドレミファ…」、「CDEF…」といった既存の音名・階名には欠点があるとして、昭和12年頃から独自のものを考案しようと研究を始めました。そこで、出来たのが、永井式音名「ダナヤバサラタ」。全国に普及はしませんでした。大阪音楽学校時代に本学でも一時期この音名を使用していたそうです。

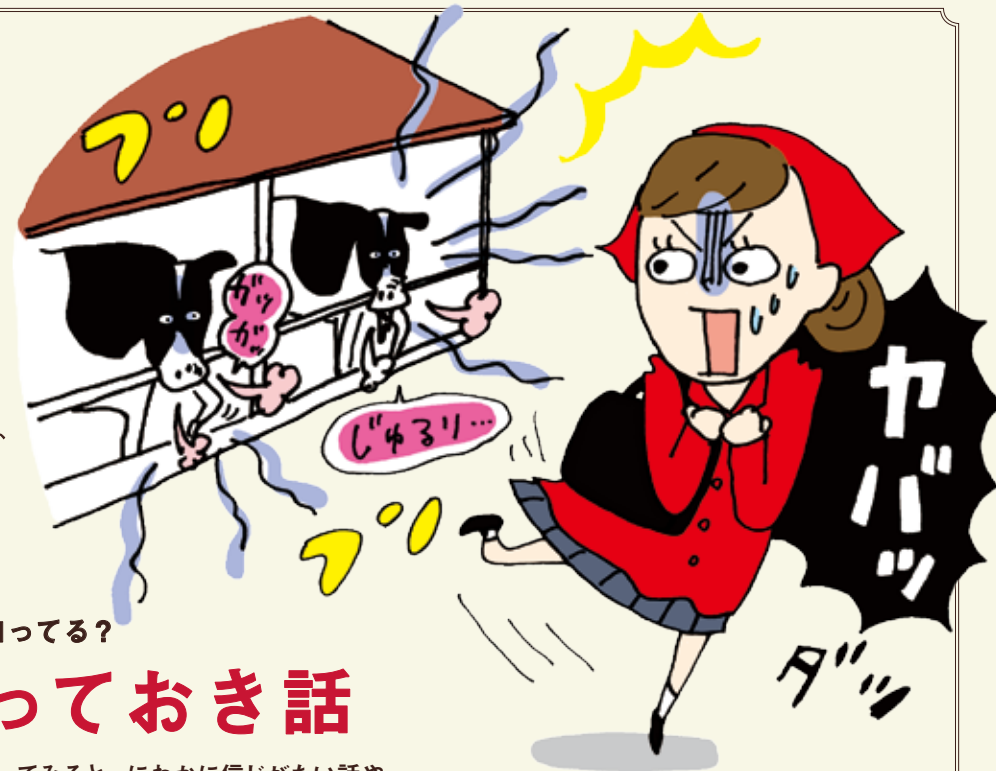


始末書覚悟の演奏会

かつて、学生による学外での演奏活動が禁止されていた時代がありました。しかし、アルバイト感覚で出演を試みる学生も数多くおり、マスクを被って変装したり色々工夫した学生もいたそうですが、演奏のクセなどで出演がバレルと始末書を書く羽目に…。当時は「学生の立場でありながら、人様の前で演奏するなんてけしからん」という風潮だったのかもしれませんが。

赤いレインコートは命がけ!?

今でこそさまざまな店が立ち並ぶ庄内駅前ですが、本学のキャンパスが移転した昭和29年頃は駅のホームから学舎が一望できたぐらい学校の周りには何もありませんでした。雨の日は道がぬかるむため、学生はゴム長靴を履いて登校。その途中には牛舎があり、牛を刺激しないよう、赤いレインコートや傘は禁物とされていたとか。



あなたはどれだけ知ってる?

大音とっておき話

100年の歴史をさかのぼってみると、にわかに信じがたい話や、おもしろエピソードも盛りだくさん! あなたはどれだけ知っていますか?



闇を切り裂く弓矢に気分も最高潮

昭和40年の大学祭で初めてファイアーストーム(キャンプファイアー)が行われ、平成10年頃まで続きました。薪にする木材は鉄道会社の古い枕木をもらい受け、中庭の中央で井桁に組まれました。学生たちが遠巻きに周りを囲む中、自治会長の合図でA号館の屋上から火のついた弓矢が放たれ点火するという演出もあったとか。今でも中庭の煉瓦敷き歩道の真ん中には焦げ跡が残っています。

男女交際なんてアリエナイ!

大阪音楽学校の開校当時は、日本全体で男女共学が認められていませんでした。本学においても月水金が男子、火木土が女子と一日交替で男子と女子の授業を行い、授業時間は午後4時から午後9時まででした。男女共学が実現するのは開校から33年経った昭和23年、大阪音楽高等学校設立時のこと。学校帰りにデート、なんて夢のまた夢だったんでしょうね。



杉本友樹

〔作曲家〕

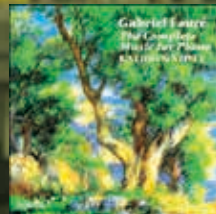
2014年 大学院 作曲専攻修了

学生と真摯に向き合ってくれる
魅力的な先生方と出会える場所。

短大の電子オルガン・コースに入学後、当時指導していただいた森本友紀先生の勧めもあり、大学の作曲専攻に3年次編入しました。

演奏者から曲を作る側への転向はかなり不安でしたが、実際に講義が始まってからは、もともと作曲を学んできている学生との差を痛感する日々でした。ただ「編入生だから」と思われるのはいやだったし、みんなと同じように講義に参加したかったので、そこからは

杉本友樹さんの
思い出の1曲は



「ノクターン第6番」
フォーレ

副科のピアノの先生に勧められたフォーレ。それまで特に好んで作品を聴くことはありませんでしたが、一度聴いてからはハマってしまい、通学の電車でずっと聴いていました。

YUKI SUGIMOTO

大阪音楽大学短期大学部専攻科電子オルガンコース修了後、大阪音楽大学作曲専攻編入、卒業を経て大阪音楽大学大学院作曲研究室修了。第4回電子オルガンの為の作品公募入選。第82回日本音楽コンクール作曲部門（室内楽）入選。第83回日本音楽コンクール作曲部門（オーケストラ）1位受賞に合わせて明治安田賞、三善賞を受賞。

西山瞳さんの思い出の1曲は



「That Warm Feeling」
Count Basie Straight Ahead
合奏の授業で演奏していた時、先生の指導を聞いていなかったことが原因で曲のスウィング感に合わせて弾けず、私のせいで1時間授業を止められたことがあって。それ以来、私が真面目に授業を聞ききっかけになった曲です(笑)。

今思う、大音の魅力

100年の歴史の中で、大阪音大は数多くの
音楽家を輩出してきました。

各界で活躍する卒業生に、在学中の思い出や
今だから思う大阪音大の魅力についてお聞きしました。

HITOMI NISHIYAMA

2005年横浜ジャズブロンズ・コンペティション優勝。
2006年スウェーデン録音CD「CUBIUM」をアミューズより発表し、デビュー。以降、13枚のリーダー作を発表、高い評価を得ている。自己のトリオなどで、全国的な演奏活動を展開。
<http://hitominishiyama.net>

実は「ジャズピアニストになろう」と意識したことはなくて、大学入学後に学外の知人に誘われて始めた演奏活動の延長で今に至るという感じなんです。

大阪音大は、指導していただいたいた畑本浩先生をはじめ現場たたき上げの先生が多く、現場の感覚に基づき指導が多いことが魅力でした。良いものは良い、ダメならダメと、ただそれだけ。もちろん基本を押さえた上での話ですが、わりと自由に育てていただいたなと思っています。

指導の中でも印象に残っているのは「適度な脱力感」の大切さ。演奏家手なら常に全力で歌いますが、ジャズはその場の空気に合わせて弾くことでより魅力が増すもの。自分が必死だと、場の空気に合わせることはできません。40%ぐらいの力加減で、その場で起こることにアンテナを張っておく——プロになった今でも心がけている言葉です。

西山 瞳

〔ジャズピアニスト〕

2000年 短大 音楽専攻（ジャズ）卒業

現場たたき上げの
魅力的な指導者
のびのびと学んだ2年間。

「音楽を通じて人とつながりたい」という思いが私の音楽活動の原点。大学時代は友人などいろいろな人に声をかけて企画をやってみるなど、人の輪を広げることに夢中でした。中でも今の私に大きな影響をもたらしたのが友人と結成した「豊中室内合奏団」。今思うと学生の拙い演奏でしたが豊中の酒屋を会場に月1回ほど弦楽合奏をする中で、弦楽器だけの合奏がこんなに温かく楽しいものなのかと知りました。入学

当初はオーケストラに入りたいと思っていたのですが、合奏団を経験したことで室内楽を志向するようになりました。大阪音大は規模の小さい大学ですが、オーケストラが声楽のオペラの伴奏をしたり、室内楽で管楽器のひとと一緒に演奏したり、自分の専門だけでなく、幅広い音楽の世界を見ることができ。ちょっとしたきっかけで扉がどんどん開いていく感覚はこの規模だからこそ得られるものではないかと思っています。

木村悦子

[ヴァイオリニスト]

1993年 大学院 器楽専攻修了

幅広い音楽に触れ、扉が開く感覚は
小さい規模だからこそ得られるもの。

木村悦子さんの
思い出の1曲は



「交響曲第5番」

ショスタコーヴィチ

1年生のとき、オーケストラの定期演奏会で演奏した曲です。演奏中のアクセントが印象に残っていて、今でもこの曲を演奏するたびにその定期演奏会の記憶が蘇ります。

ETSUKO KIMURA

トロント交響楽団アシストコンサートマスター他 オンタリオフィルハーモニー、トロントの室内合奏団 Group of 27 等のコンサートマスターも務める。その傍ら、ソロ、室内楽活動を精力的に行い、トロント交響楽団ユースオーケストラコーチ、トロント大学の非常勤講師として、後進の指導にも積極的に関わっている。

榎 貴志さんの
思い出の1曲は



「フィガロのアリア〜私は町の何でも屋〜（ロッシーニ）」

オペラ「セビリアの理髪師」より

大学卒業後にこの曲でさまざまなコンクールを受け、今では自分の持ち曲と思っています。明朗で楽しく、どこか粋。僕の音楽人生のモットーが詰まった、名刺代わりとも言える一曲です。

TAKASHI MASU

大阪音楽大学声楽学科を卒業。新国立劇場オペラ研修所第5期生修了。第23回五島記念文化賞オペラ部門新人賞受賞。第37回イタリア声楽コンクール・ミラノ大賞（第1位）。オペラでは、「沈黙」、「ピーター・グライムズ」、「カーリユーリバー」他多数出演。NHK-FM「名曲リサイタル」「リサイタル・ノヴァ」「ベスト・オブ・クラシック」NHK-BS「クラシック倶楽部」に出演。

プロを目指して音楽科に通っていた高校3年の夏、大学時代に師事することになる川下登先生の個人レッスンを受けたことが大阪音大に進学したきっかけでした。入学後は1年生のときから先輩に頼んで有志のオペラに参加させていただくなどオペラ一色。4年生になり、1年間で3〜4本上演したときはさすがにフラフラで、電車の中で立ったまま寝てしまったこともありましたが（笑）。それでもオペラが好きだったから苦ではなかったですね。

卒業後に周囲の人と話していると大阪音大の声楽がいかに充実していたかを実感します。イタリアやドイツ、フランスなど専門の先生から原語で歌を学べることで、オペラハウスなどで舞台の経験を多く積めること。学びと実践のバランスが取れたカリキュラムは、他の学校にはない大阪音大ならではの強みだと思います。

榎 貴志

[オペラ歌手]

2002年 大学 声楽専攻卒業

原語で学び、数多くの経験を積む
卒業後に気づいた充実の教育環境。



大学にあるピアノ

489台

内訳はグランド439台、フルコン8台、アップライト42台。177室の練習室のほとんど全てにグランドピアノが設置されています。

数字で見る大音の今。

大阪音大にまつわる「数字」で、その歴史の重みや受け継がれる魅力をひもといてみました。

※数字は2015年度現在のものです。

文化庁芸術祭大賞受賞

3回

1946年から約70年、毎年秋に日本国内で行われている諸芸術の祭典。過去3回、「沈黙」（2005年）、「ねじの回転」（2011年）、「鬼娘恋首引／カーリユー・リヴァー」（2014年）で受賞しています。



左上：「沈黙」（2005年）。右上：「ねじの回転」（2011年）。
下：「鬼娘恋首引／カーリユー・リヴァー」（2014年）。

いまで卒業した人数

約35000人

資料が残っている1926年以降の卒業生は35,356人。卒業生による同窓会組織「幸楽会」は国内やヨーロッパ各地に支部を置き、会員のコンサートやリサイタルの後援、母校への支援などを行っています。



「楽友」第一号に掲載された、1929年3月本校卒業生並予科修了生の集合写真（前列には教員9名、後列には卒業生）。前列左より、教員の長井齊、内藤俊二、水野康孝、永井校長、永井源、田中輝孝、松本仙、片山静子、永井八重子。

付属図書館の所蔵点数

約19万点

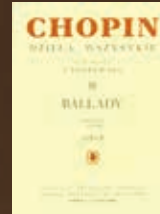
国内外から収集した楽譜が約49,000点、CD、DVDなどの音源映像資料は約54,000点、書籍が約83,000点。クラシックのみならずジャズやポピュラー音楽、ミュージカルと幅広いジャンルにわたり、学生や教員の日頃の勉学や研究を支えています。

海外の提携校

8校

世界6ヶ国、8校の音楽系大学や音楽院と提携関係を結んでいます。学生のみさんの「学びたい」という気持ちを全力でサポートしています。

丸山耕路さんの思い出の1曲は



「バラード第4番」

ショパン

ショパン円熟期の一曲。大学2年生の終わりごろから弾き始め、数々のコンクールや4年生時にオペラハウスで開催したリサイタル、卒業演奏会と、私の人生の節目で弾いてきました。

幼いころから電子オルガンを習っていた私がクラシックピアノを弾き始めたのは16歳のときでした。早い人なら5歳ぐらいからピアノ奏法の基礎を勉強し始めるのでしようが、私は自己流。大学入学時はピアノ歴2年で、指が弱いことも自覚していました。しかし、師事していた清水淳彦先生はそれとをがめることもなく、今ある音楽を伸び伸びと弾かせてくださっ

た。その一方で、西洋音楽の根本、核もしっかり教えてくださったことが、今の私の礎になっています。卒業して10年。大阪音大は音楽にあふれ、自由に伸び伸びした校風だったと思います。熱意のある学生に囲まれ、自分がやりたいことや目標さえしっかりしていれば、学校もバックアップしてくれる。そんな居心地の良さが魅力だったと感じます。

丸山 耕路

[ピアニスト]

2006年 大学 ピアノ専攻卒業

音楽にあふれる自由な校風
居心地の良さが魅力。

KOJI MARUYAMA

大阪音楽大学を卒業後、ロームミュージックファンデーション奨学生として渡独。国立デトモルト音大、国立シュトゥットガルト音大にて研鑽を積んだ。日本音楽コンクール2位、飯塚新人音楽コンクール1位ほか受賞多数。現在、大阪音大講師。

ちから強く生きる“音楽人”を、ここから。

理事長と在学生の座談会

大阪音大 次の100年へ

これからの関西、日本の音楽シーンの一端を担っていく現役学生が、
現在の学びや卒業後のビジョン、また大阪音大の魅力などを
中村孝義理事長と語り合いました。

100th
ANNIVERSARY
SINCE 1915

2015年、創立100年

中村 孝義
理事長

小西 由梨奈
ピアノ指導者コース・
大1

佐野 仁美
ポピュラーコース
(ボーカル)・短2

崔 勝貴
管楽器専攻
(サクソフーン)・大4

中村 崔くんはどうして大阪音大に入ろうと思ったの？
崔 高校2年生のとき、所属していた吹奏楽部の先生に西本淳先生を紹介していただいたのがきっかけでした。初めて西本先生に会ったとき、直感で「この人についていたら大丈夫だ」と思うほどのごい衝撃を受け、迷わず大阪音大に進学しました。
中村 人との出会いや、そこでのビビッとくる感覚は大事です。崔くんはいい出会いをしたんですね。
佐野 さんは短大ですね。2年というのは短くないですか？
佐野 短いですが、短いからこそ集中できると思います。ポピュラーコースは卒業後もクリエイターやシンガーソングライターといった音楽活動が続ける人が多いので、2年で卒業して早く音楽活動に打ち込む方がいい。限られた時間で精いっぱいいることができますし、短大で学んだことを生かして自分の活動に専念できるので、私は2年で良かったと思っています。
中村 たしかに、集中的にやるということは大事なことです。卒業してから、長い音楽生活が待っているわけですからね。4年制がだらだらしているということではなく、ポピュラーコースは2年でも集中して取り組めばいいものが得られ

るというわけですね。
佐野 2年生になってからは音楽漬けなので、毎日があっという間です。そういえば、新校舎の建設工事が始まっていますが、ずっとK号館で過ごしていると「あの古い感じがK号館なのに(笑)」というちょっと寂しい思いもあります。
中村 「住めば都」と言うけれど、老朽化しているのも事実。新校舎は8階建てで図書館や博物館も集約します。卒業してからでも、ぜひ利用してくださいね。
小西 さんはどうして大阪音大のピアノ指導者コースを選んだの？
小西 将来、ピアノの先生や高校の音楽の先生になりたいと考えて選びました。母や高校時代の吹奏楽部の顧問の先生、マーチングの先生も大阪音大の卒業生だったので大阪音大を選びました。今はピアノ専攻の学生に囲まれて、周りもすごく練習しているので、私も「頑張ろう」といい刺激を受けています。
中村 そんなに深い縁があるんですね。大阪音大は今年で100周年を迎えましたが、関西の大学界に占める存在感は大きい。小西さんに影響を与えてくれた人がほとんど大阪音大の卒業生というのは非常に嬉しいことです。
この場で先輩に聞いてみたいことは何かありますか？



66 大学で『プロになる覚悟』の大きさが変わりました。

——— 崔勝貴

66 2年だからこそ、精いっぱい濃密な時間が過ごせます。

——— 佐野仁美

66 同じ専攻の友だちから刺激を受け、切磋琢磨しています。

——— 小西由梨奈

66 念ずれば花開く——チャンスを実につかめる準備を。

——— 中村孝義

です。人のつながりもできるし、東京でのフィールドも広がるという良さはあるけれど、それは学校に行かなくてもできること。学歴のためではなく「東京留学」という感覚でいろいろな世界を見て、空いた時間にお金を貯めてヨーロッパの音楽に触れて、レッスンを受けて——と、そういう方向で考えています。

佐野 私はシンガーソングライターを続けていきたいです。大学入学時はメジャーデビューしたい一心でしたが、大学でいろいろなことを学ぶうちに、メジャー以外にも活躍できる場所がたくさんあることを知りました。メジャーがすべてではなく、細く長くずっと音楽に携わりながら生きていきたいと思っています。

中村 先ほど「念ずれば花開く」と言いましたが、そういう思いが大事。人生にチャンスは絶対に来るんです。チャンスがぶら下がっているのに、つかみ損ねる人がいるのはもったいないと思います。

小西 私は高校時代、部活に熱中しすぎて進路をあまり深く考えていませんでした。そのときの反省から、今は卒業後の目標を「高校教師になる」と決めて、教員採用説明会に行ったり、採用試験の過去問を解いてみたり、できることから実践し

小西 心境の面で入学前と変わったところはありますか？

崔 「この道で一生食べていく」という覚悟の大きさかな。高校時代も「絶対プロになる」と思っていたけれど、大学に入ってから視野が広がり、音楽業界のことも深いところまで見られる。今の周囲の環境と自分の立場を照らし合わせ、どうすればいいのかということ考えたときに覚悟の大きさが変わりました。

中村 私が学長だったとき、留学生から「大阪音大は教育環境に恵まれ、吸収することはいくらでもあるのに、多くの学生はのほほんとしているように見える」と言われたことがあります。崔くんが言う「覚悟」は非常に大事。留学生の彼は恵まれない環境の中で覚悟を持って大阪音大に来ていたから吸収するものも違っていました。

ところで、音楽を取り巻く環境の厳しさを感じることはある？

崔 関西と関東でコンサートを開く際、1000円程度の学生券でも関西では「高い」と言われますが、関東では2000円でも「安い」と言われる。いつまでもそういう価値観では関西の音楽の土壌は発展しないと思います。

中村 値付けをする方も自分たちの芸術行為にそれだけの値打ちが

あると自信を持つべきですね。

佐野 ポピュラーは数年前からCDが売れなくなっています。テレビよりもネット、YouTubeなどの動画サイトが身近なメディアになりつつある今、数多くのミュージシャンの中から私に注目してもらうため、私もネットでの発信を始めました。

中村 今、音楽大学に求められていることは演奏技術を磨くこと、それを聴いてもらう仕掛けをどのようにしていくかということ。そういうものを自分でオーガナイズやアレンジする能力——大学としてその部分を強化する必要があると考え、来年から「ミュージッククリエーション」「ミュージックコミュニケーション」という2つの専攻を開始します。

小西 私のもっと視野を広げて、毎日の大学生活を過ごしたいです。

中村 「念ずれば花開く」というように、「こうありたい」と思ったときに自分がやりたいことに役立つ情報が集まってきて後押ししてくれる。だから、念することはすごく大事なことです。

みなさん、卒業してからやりたいと思っていることはどんなことでしょうか？

崔 東京の大学院を受験する予定です。

中村 人生に関わる「先生」の果たす役割は大きいと思います。小西さん自身も人間性を豊かなものにし、音楽が好きの人をたくさん増やしてください。

今日は3人の素晴らしい面や夢に向かって着実に進んでいることを聞いて嬉しかったです。

崔 私もさくばらんに話せて、楽しい時間でした。

佐野 普段、他の専攻生と話をする機会がないので、すごく勉強になることばかりでした。

小西 先輩たちからこんないい話を聞けるとは思っていませんでした。1年生のうちに聞けてよかったです。

中村 101年目からの大阪音大は「演奏家を育成する」という使命から一歩進んで、音楽を社会の大きな存在として位置付けていける人材を世の中に送り出す。そして関西の音楽文化において「大阪音大の存在は欠かせない」「大阪音大がなければ関西の音楽が盛んにならない」と言われるような大学にしていきたいと思っています。今日みなさんとお話をして、そういう人たちを送り出せるだろうという自信が出ました。みなさんも、花を開かせるための準備を怠らず頑張ってください。

あると自信を持つべきですね。

佐野 ポピュラーは数年前からCDが売れなくなっています。テレビよりもネット、YouTubeなどの動画サイトが身近なメディアになりつつある今、数多くのミュージシャンの中から私に注目してもらうため、私もネットでの発信を始めました。

中村 今、音楽大学に求められていることは演奏技術を磨くこと、それを聴いてもらう仕掛けをどのようにしていくかということ。そういうものを自分でオーガナイズやアレンジする能力——大学としてその部分を強化する必要があると考え、来年から「ミュージッククリエーション」「ミュージックコミュニケーション」という2つの専攻を開始します。

小西 私のもっと視野を広げて、毎日の大学生活を過ごしたいです。

中村 「念ずれば花開く」というように、「こうありたい」と思ったときに自分がやりたいことに役立つ情報が集まってきて後押ししてくれる。だから、念することはすごく大事なことです。

みなさん、卒業してからやりたいと思っていることはどんなことでしょうか？

崔 東京の大学院を受験する予定です。

中村 人生に関わる「先生」の果たす役割は大きいと思います。小西さん自身も人間性を豊かなものにし、音楽が好きの人をたくさん増やしてください。

今日は3人の素晴らしい面や夢に向かって着実に進んでいることを聞いて嬉しかったです。

崔 私もさくばらんに話せて、楽しい時間でした。

佐野 普段、他の専攻生と話をする機会がないので、すごく勉強になることばかりでした。

小西 先輩たちからこんないい話を聞けるとは思っていませんでした。1年生のうちに聞けてよかったです。

中村 101年目からの大阪音大は「演奏家を育成する」という使命から一歩進んで、音楽を社会の大きな存在として位置付けていける人材を世の中に送り出す。そして関西の音楽文化において「大阪音大の存在は欠かせない」「大阪音大がなければ関西の音楽が盛んにならない」と言われるような大学にしていきたいと思っています。今日みなさんとお話をして、そういう人たちを送り出せるだろうという自信が出ました。みなさんも、花を開かせるための準備を怠らず頑張ってください。



CONCERT SCHEDULE

OH: ザ・カレッジ・オペラハウス MH: ミレニアムホール ※必ず主催者発表のものと照合してご確認ください。

大阪音楽大学主催公演

お問い合わせ
大阪音楽大学コンサート・センター
TEL: 06-6334-2242
http://daion.ac.jp

第5回ミレニアムピアノコンサート
10/6(火)17:15～ ●丸山耕路、青井彰
●MH ●無料

第5回豊中こども音楽フェスティバル／
共催: 豊中中央ライオンズクラブ、豊中市
10/18(日)14:00～ ●ボレル・ミドル
・スクール、BOREL TOYONAKA
BAND、豊中市立第九、第十一中学
校吹奏楽部、箕面自由学園高等学
校吹奏楽部 ●OH ●無料(要整理
券※先着順)

第46回ミレニアム・スチューデント・
コンサート
10/19(月)、21(水)、22(木)18:00～ ●
MH ●無料(要整理券)

大阪音楽大学大学院定期演奏会2015
11/4(水)18:00～ ●大阪音楽大学学
院生による演奏会 ●OH ●1000円

第47回ミレニアム・スチューデント・
コンサート
11/5(木)、6(金)18:00～ ●MH ●無
料(要整理券)

第27回ザ・コンチェルト・コンサート
11/12(木)18:00～ ●選抜学生によ
る協奏曲演奏会 ●OH ●1000円

第26回ザ・カレッジ・コンサート
11/16(月)18:00～ ●選抜学生による
ジョイント・リサイタル ●MH ●1000円

第6回ミレニアムピアノコンサート
11/25(水)17:15～ ●大竹道哉、富樫
三起子 ●MH ●無料

第38回邦楽演奏会
11/27(金)18:00～ ●邦楽専攻・邦
楽コース在学、邦楽専攻教員 ●
MH ●1000円

大阪音楽大学第58回定期演奏会
12/6(日)15:00～ ●指揮: 神通英洋、管

弦楽: 大阪音楽大学管弦楽団 ●OH
●1000円

大阪音楽大学音楽博物館主催
創立100周年記念 第78回ミュージ
アム・コンサート 古雅な音をもとめ
て～ピリオド楽器の魅力～
10/28(水)18:00～ ●演奏: 高田泰治、
お話: 西村理 ●MH ●一般2000円、
高校生以下1000円(自由席)

大阪音楽大学後援演奏会

バリアフリーコンサート vol.33
～未来へのプレリュード～
9/19(土)14:30～ ●石原光世、木村
孝夫、福住恭子、橋本恵史 ●茨木
市市民総合センター (クワイエットセ
ンター) センターホール ●一般1500円
(当日2000円)、ペア2500円(当日
3000円) ●☎090-3822-2911 (バ
リアフリーコンサート企画 石原)

神戸ビエンナーレ アンサンブルで“ほっ”
10/4(日)15:00～ ●北浦洋子、田中
潤子、坂本恵子、皆川隼人 ●兵庫
県立美術館 ●3000円 ●☎078-
367-3560、090-4496-3560 (アー
トフォレスト)

須山知行七回忌 追善演奏会
10/18(日)13:00～ ●中島馨子、北
野徹、松尾昌美、林絹代、星田一
山、小牧万須美、村上洋子、大山紗
代 ●国立文楽劇場 ●4000円 ●☎
06-6991-2334 (桐絃社)

2Pianos Ensemble 環 Concert vol.4
10/24(土)13:30～ ●安倍美穂、遠藤
希予、北村美奈子、澤近真紀、水頭
説子、藤本範子、堀田淳子 ●西宮
市プレホール ●2000円 ●☎090-
3036-0214 (北村)

増井一友ギターコンサート Vol.16
10/28(水)19:00～ ●西宮市甲東
ホール ●1000円 ●☎050-3497-
0294 (夙川ギター倶楽部)

第6回茨木新作音楽展
10/31(土)、11/1(日)16:00～ ●大澤弘之、
岡田正昭、梶山拓也、熊谷美紀、高昌

演奏会やオペラなど、大音関連のイベントを紹介。

帥、駒井肇、中澤道子、八田京子、森
本友紀 ●茨木市市民総合センター (ク
ワイエットセンター) ●一般2500円、学生
1500円 ●☎090-3914-3560 (駒井)

超絶技巧のクラリネットと魅惑のヴァ
イオリンの調べ Vol.2
11/1(日)14:00～ ●Michele Inconzo、
真殿美和子、山田慶子 ●世良美術館
●3000円(当日3500円) ●☎078-
822-6456 (世良美術館)

鳥居知行ピアノリサイタル
11/2(月)19:00～ ●いずみホール ●
3000円 ●☎06-6135-0503 (大阪
アーティスト協会)

一響の軌跡—
東儀祐二・幸メモリアルコンサート
11/23(月・祝)14:00～ ●指揮: 澤和
樹、演奏: 久合田緑、曾我部千恵
子、森田玲子 他(大音卒業生も参加)
●いずみホール ●3000円 ●☎06-
6364-5836 (モーツァルトサロン)

第26回大阪音楽大学
クラリネットオーケストラ演奏会
12/15(火)19:00～ ●大阪音楽大学ク
ラリネット専攻生 ●いずみホール ●
1000円 ●clarinetorchestraosaka
@yahoo.co.jp (眞崎)

学生自主演奏会

若あづクラリネットリサイタル
～二大協奏曲のタベ～
9/28(月)18:00～ ●MH ●無料 ●
☎080-1502-1216 (若)
今回は二大協奏曲のタベと題し、モー
ツァルトとウェーバーの協奏曲を演奏
いたします。クラリネットの魅力が詰ま
った演奏会です。皆様のお越しを心より
お待ちしております。

ザ・ストリング・コンサート
10/25(日)14:00～ ●MH ●無料 ●
☎090-1447-3936 (中村)
本大学学部生並びに短期大学部生
の弦楽器専攻生一同が年に1度、研
鑽した成果を披露する演奏会を開催
致します。今回はその13回目となり、
大学が創立100周年である節目の年

に在籍するストリングスとして大きな意
気込みを持って臨みます。皆様のご来
場心よりお待ちしております。

幸楽会後援演奏会

興幸代ヴィオラリサイタル vol.5
9/27(日)14:00～ ●興幸代、永坂恭子
●サンスクエア堺サンスクエアホール ●
一般2000円(当日2500円)、学生1500
円(当日のみ) ●☎090-4907-6071

バロック音楽の極み
～歌・器楽・バロックダンスの饗宴～
10/3(土)14:00～ ●ダンス: 樋口裕子、
今野典子、宮口加奈、声楽: 緒田芳
江、鈴木美紀子、緒田吉也、器楽:
横山知彦、中西歩、吉竹百合子、橋
詰智章 ●シーサイドホテル舞子ビラ
神戸 あじさいホール ●3000円 ●☎
090-7420-7371 (バロック音楽の極
み実行委員会)

高岡充子ソプラノリサイタル
10/10(土)15:00～ ●高岡充子、長谷
川美穂子、狩谷春樹 ●あましんアルカ
イクホール・オクト ●3000円 ●☎
06-6487-0806 (尼崎芸術文化協会)

田村靖子 Soprano Recital
10/25(日)14:30～ ●田村靖子、長
谷智子 ●世良美術館 ●2500円 ●
recital.tamura@gmail.com

ミ・ベモル サクソフォンアンサンブル
第31回定期演奏会
11/6(金)19:00～ ●いずみホール ●A
席4000円、B席3000円、C席2500
円(当日各500円増) ●☎06-6944-
1188 (いずみホールチケットセンター)

川尻淳ピアノリサイタル
11/10(火)19:00～ ●すみだトリフォ
ニーホール 小ホール ●3000円 ●☎
080-3839-1770 (川尻)

西田歩美サクソフォンコンサート
ロマンス～かきたる音と情景～
11/29(日)14:30～ ●西田歩美、陣門華
子 ●フィガロホール ●一般2500円(当
日3000円)、学生1500円(当日2000
円) ●☎090-9093-4573 (西田)

大阪音楽大学創立100周年記念

SPECIAL CONCERT

2015 10.15 Thu > 17:30

創立100周年記念特別演奏会



©大木大輔

- 会場: フェスティバルホール
- 指揮: 西本智実
- ソプラノ: 石橋栄実
- アルト: 竹本節子
- テノール: 望月哲也
- バリトン: 田中勉
- 合唱: 大阪音楽大学創立100周年記念合唱団
- 合唱指揮: 里井宏次
- 管弦楽: 大阪音楽大学創立100周年記念管弦楽団
- 曲目: L.v. ベートーヴェン/交響曲第9番 二短調 作品125[合唱付き]
- 入場料: A席 5000円、B席 3000円、高校生以下 1000円(全指定席)

2015 11.18 Wed > 18:30

第66回文化庁芸術祭受賞記念 岡原慎也 ピアノリサイタル

- 会場: ザ・カレッジ・オペラハウス
- 曲目: F. シューベルト/ピアノ・ソナタ第20番 イ長調 D959、ピアノ・ソナタ第21番 変ロ長調 D960
- 入場料: 一般 3000円、高校生以下 1000円(全自由席)

2015 12.21 Mon > 18:30

Duo < Héau-Zygmanski > デュオ「エオー＝ジグマフスキー」リサイタル ～クラリネット 100年の歴史～



- 会場: ザ・カレッジ・オペラハウス
- 出演: クラリネット/フローラン・エオー ピアノ/バトリック・ジグマフスキー
- 曲目: C. ドビュシー/クラリネットとピアノのための第1狂詩曲、C. サン＝サーンス/クラリネットとピアノのためのソナタ 変ホ長調 作品167、L. バーンスタイン/クラリネットとピアノのためのソナタ ほか
- 入場料: 一般 3000円、高校生以下 1000円(全自由席)

2015 10.30 Fri > 18:00 11.1 Sun > 14:00

創立100周年記念オペラ公演 G.ヴェルディ: 歌劇「ファルスタッフ」

A席は記念ワイン付きになります

11月1日の
入場券は
すべて完売
いたしました



(c)Naoya+Yamaguchi

- 会場: ザ・カレッジ・オペラハウス
- 指揮: 下野竜也 ●演出: 岩田達宗
- 合唱: ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団
- 管弦楽: ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団
- キャスト: ファルスタッフ/田中勉、フォード/晴雅彦、アリーチェ/松田昌恵、ナンネッタ/石橋栄実、フェントン/清水徹太郎、クイックリー/荒田祐子、メグ/並河寿美 ほか
- 入場料: A席 10000円(記念ワイン「Opéra」付き)、B席 8000円、高校生以下 3000円(全指定席)

記念ワイン「Opéra」はインターネットでも購入できます。
http://opera.hokuseiwinery.com/
販売価格: ¥2800(税別・送料別) 限定先着「100本」。売り切れ次第終了。
※2015年10月15日より発送させていただきます。



2015 11.26 Thu > 18:30 第65回文化庁芸術祭受賞記念 田中勉バリトンリサイタル

- 会場: ザ・カレッジ・オペラハウス
- 共演: ピアノ/岡原慎也、箏/片岡リサ、十七絃箏/橋本桂子
- 曲目: 三木稔/歌集「ペロ出しチョンマ」、R. シュトラウス/セレナーデ、G. ヴェルディ/歌劇「リゴレット」より悪魔め ほか
- 入場料: 一般 3000円、高校生以下 1000円(全自由席)

2016 3.6 Sun > 15:00

創立100周年記念吹奏楽特別演奏会 「大阪音楽大学 第47回吹奏楽演奏会」



©加納典明

- 会場: フェスティバルホール
- 指揮: 井上道義
- 吹奏楽: 大阪音楽大学吹奏楽団
- 曲目: 高島帥/創立100周年記念委嘱作品、大栗裕/吹奏楽のための「大阪俗謡による幻想曲」、D. ショスタコーヴィチ/交響曲 第5番 二短調 作品47
- 入場料: A席 5000円、B席 3000円、高校生以下 1000円(全指定席)
- チケット発売日: 10月1日(日)10:00

お問い合わせ: 大阪音楽大学コンサート・センター TEL: 06-6334-2242 FAX: 06-6334-2164 http://daion.ac.jp

「ON-AR」で

MUSE オリジナル動画を見よう!

まずはアプリ(無料)をダウンロード!



Google play iTunes App Store

スマートフォンを上記のマークの付いた写真にかざすと動画を見ることができます。アプリ(無料)をダウンロードして、オリジナル動画を見てみよう!

最新情報を配信中!

右記のSNS 配信サービスでも大音情報をチェックできます。



@ocm_t

@daion

iTunes App Store

Google play

●編集後記

10月15日の創立記念日を目前に、今号は「創立100周年特別編集」でお送りします。世界各国で活躍されている本学卒業生の指揮者、西本智実さんのスペシャルインタビューに始まり、大阪音大の歴史を辿り、現在活躍中の卒業生にもご登場いただき、在学生と理事長との座談会と、大阪音大の魅力を探る特別な1冊となりました。

引っ越しなどで住所が変わり「Muse」が転送されている方がいらっしゃいましたら、現在の正しい住所を大学へお知らせください。郵便局の転送サービスは期間が終わると配達されなくなります。メール(muse@daion.ac.jp)かFAX(06-6334-2141)で連絡をお願いします。

百周年悩んだ末に百づくし

今回の「MUSE」は「大阪音楽大学創立百周年特別号」、ということでお目出度いことには縁のない私の連載はお休み、と喜んでいたのですが、「どっこいそうは問屋が卸さない」というのが世の常、「私が書く」と百周年の格調高い誌面の汚点になるよ」と抵抗したにもかかわらず、最終ページの脱力感がないと締まらない、とよく考えると訳の分からないひとことと説得されて、書き出したのですが、さてさて単純な頭では百周年に引っ掛けて何か、くらいしか思い浮かばない、というわけで調子よく節をつけてどうぞ。

百聞は一見に如かずといいますが、ここで逢ったが百年目、百にひとつの偶然か、百年の不作に百年の恋も一時に冷めて、お前百までわしや九十九まで、雀百まで踊り忘れず、百戦錬磨の百獣の王もアツと驚く百発百中、百も承知で百薬の長を飲み干すも、百害あつて一利なし、百済観音百合の花、百日紅はサルスベリ、百日草はメキシコ原産、古代ローマの百人隊長、百年戦争はジャンヌ＝ダルク、百年の孤独はガルシア＝マルケス、百人一首はカルタ会、議論百出百姓一揆百戦百勝百貨店、百万言を費やして百日の説法屁一つ、百足ムカデがお百度を踏んで百日詣で、明日の百より今日の五十、百歩譲って五十歩百歩、百万長者の百面相、百様を知って一様を知らずとも三つ子の魂百まで、百葉箱で氣象観測、日常品は百均で百鬼夜行の百科事典、百物語は怪談会、語り終わってローソク消えると妖怪現れ百十番、百里を行く者は九十里を半ばとするが、月日は百代の過客にして行きかう年も又旅人、百年の計を百人力で大阪音大百周年！



Cosmo Winks
文・イラスト 武藤 好男

MUSE

[ミューズ]

MUSE
Sep 2015
Vol.235

大音の魅力を探る。

学校法人 大阪音楽大学出版部 [MUSE] vol.235 2015年9月15日発行 <http://odon.ac.jp>
発行：学校法人 大阪音楽大学 〒554-8585 豊中市庄内南町1-1-8 TEL: 06-6334-2704 FAX: 06-6334-2141
制作・編集：広瀬 寛 muse@odon.ac.jp 制作協力：印刷：(株)通達システム

楽 大阪音楽大学

100th
ANNIVERSARY
SINCE 1915

9
Vol.235
September
2015

創立100周年特別号

これまでの大音、これからの大音。
大音の魅力を探る。

7月10日、ザ・カレッジ・オペラハウスで開催された「西本智実客員教授 オーケストラ 特別講義」